



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3335S		
科目名	危機管理特殊講義 5		
担当教員	村田 毅		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 1		
講義室	1203	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門基礎		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B〔自己啓発〕自己の存在意義を知り、自ら高め続ける努力を継続することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（50%） B1 自己啓発（10%） I1 理解・分析と読解（20%） I2 量的分析（10%） I3 情報分析（10%）		
教員の実務経験	■ 保険商品の開発・引受や保険法制の実務に加え、リスク評価と定量化、統合リスク管理、保険プールの運営などに携わってきました。これらの実務経験・知識をもとに損害保険の理論的・技術的な基礎を具体的な商品や事例に基づいて理解できるよう講義を行います（第10、11、13回）。 ■ 実際の事故や災害、統計数値を参照するとともに、巨大リスクや困難なリスクを処理する再保険やプールなどの制度・仕組みを示し、損害保険がどのように成り立っているのか（補償を安定的に提供し続けることを可能にしているのか）興味を持ち、リスクと保険について踏み込んで考えられるよう、具体的な材料を提示します（第1、4、12、14回）。		
成績ターゲット区分	■ 成績ターゲット 能力開発の目標ステージと対応 2 進期期～ 3 発展期		
科目概要・キーワード	■ 家計も企業も事故や災害、事業や投資の失敗、サイバー犯罪など、様々なリスクにさらされ、その管理と処理を課題としてかかえている。損害保険は、多様なリスクに対応して様々な商品があり、家計や企業のリスクマネジメントのツールとして重要な役割を果たしている。本科目では、リスクの概念や分類、損害保険の内容と損害保険を支える仕組み（技術的基礎）を具体的に学んだうえ、それらを活用してリスクマネジメントの課題を自ら考え、解決する力を養う。 ■ 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき、効果的な授業方法として、または、各授業を補完・代替するためにオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■ キーワード：損害保険を成り立たせている仕組み（技術的基礎）、リスクの概念・分類とその処理、リスクマネジメント		

授業の趣旨	■副題：損害保険の仕組みを学んで、リスクへの対応・処理、リスクマネジメントの考え方を身に付けよう ■授業の目的：リスクと損害保険の基礎的な概念・知識の習得を基に、損害保険におけるリスクの引受け、処理の仕組みを知り、リスクに対応した問題解決の着想と思考ツールを獲得する。 ■授業のポイント：事故や災害とそれらのリスクに対する損害保険の実際の対応に触れ、リスクに関する問題解決の仕組みを具体的に理解することで、授業の目的を達成する。	
総合到達目標	■以下の知識・理解を活用して、リスクマネジメントにかかわる問題を自ら考える姿勢を身に付け、リスクにかかわる問題解決力を培う。 ・損害保険の成立条件、リスクの概念と分類について説明できる。（第1、2回） ・家計や企業の抱えるリスクについて具体的にイメージし説明できる。（第2回） ・それぞれのリスクに対応する損害保険商品が何であり、その基本的な内容がどのようなものか、概要・特徴を把握している。（第5～10回） ・損害保険を成り立たせている数理などの技術的な基礎や再保険、プーリングなどの仕組みの基本的な内容を説明できる。（第3、4回、第11～14回） ・企業のリスクファイナンス、保険会社のリスクマネジメントの基本的なアプローチ、構造を説明できる。（第11、14回）	
成績評価方法	■成績評価手段。 小テスト 5 回程度（うち1回または2回は事前提出課題）（70% EおよびI） （評価の観点）授業内容をどの程度理解できたか。 （フィードバック方法）授業時間内に出席趣旨、解答などを説明する。 なお、授業の進捗等により、小テストの内容や実施回を変更することがある。 レポート1回（30% EおよびI） （評価の観点）授業の内容を踏まえて論理立ててわかりやすく自分の考えを示せるか。 （フィードバック方法）ポータルサイトを使って講評する。 ■(適用ルーブリック- 小テスト E1（30%）、I1（20%）、I2、I3（各10%） レポート E1、I1（各15%）	
履修条件		
履修上の注意点		
授業内容	回	内容
		①授業テーマ： 自己紹介、ガイダンス、損害保険とはどのようなものか ②授業概要： 授業の目的と15回の流れについて説明します。そのうえで、損害保険とはどのようなものかを考える導入として、様々なリスク事象(限界事例)を取り上げ、これらを補償する契約が損害保険として成立するのか、〇×を問い掛けます。これらの回答をもとに、損害保険が成立する最も基本的な条件、損害保険の概括的なイメージを示し、第2回以降、担当教員の実務経験を踏まえて、実務と理論の両面から紐解いていきます。 1 なお、目標として、15回の授業終了時において、理解・説明できるようになってほしい課題・テーマ（例：自動運転が完全に普及したら自動車保険はどうか？ 巨大な財産や賠償危険を有する企業のリスクマネジメントはどうやる？ 標準的な家計のリスクファイナンスの優先順位と最適化はどう考える？ など）をいくつか例示します。具体的な課題（論点）は授業の進行、学習の進捗を踏まえて決めます。 ③予習(120分)： 事前に掲示する「損害保険か？」の問いに対し、自分なりの理由・根拠を考えておく。 ④復習(120分)： シラバスを再確認し進め方を把握する。
	2	①授業テーマ： リスクの定義と分類、損害保険の対応 ②授業概要： 家計(生活者)、企業(事業体)双方について、現にさらされている重要なリスク（損害保険の対象かどうかは問わない）を洗い出す(I1)。企業のリスクについては、企業の開示資料を参照するなどして情報を補完する（下記予習の課題参照）(I3)。洗い出したリスクを、一般的なリスクの定義・分類（投機リスクと純粋リスク）に従って仕訳し、それに対する家計や企業の対応（損害保険の利用を含むがそれに限らない）を検討する（I1）。 リスクの定義と分類を踏まえ、損害保険はどのようなリスクをどこまでカバーし得るのかについて原則的な整理を理解し説明できる(I1、I3)。時間があれば、キャンパス周辺から多摩川あたりまでのハザードマップ、地形図を参照します。 ③予習(120分)： 企業のリスクについては、EDINETで任意の企業1社の有価証券報告書を閲覧し、第一部 企業情報－第2 事業の状況－2 事業等のリスクを参照する。注目するリスクについては、設備の状況やセグメント別売り上げなどのデータも参照してお

	く。家計については、自らの経験と想像力を活用する。 ④復習(120分)： リスクの定義と分類についての理解を整理、確認する。
3	①授業テーマ： 損害保険の誕生と発展 ②授業概要： 前回までにリスクの定義や損害保険のイメージを学んだところで、具体的な理論や商品・実務に入る前に、損害保険の誕生に遡ってみる。揺籃期の（原始的な）仕組みを知り先人の叡智に触れることで、保険の本質への関心と思索を深める（E1、B1、I1）。 具体的な材料としては、冒険貸借、ロイズの発祥、我が国の海上請負、抛銀（なげがね）、ロンドン大火と火災保険の発祥、江戸の大火と防火・消防などがあり、これらの仕組みをもとに、保険成立の条件と過程を理解する（E1、B1、I1）。 なお、第4回で取り上げる「オチ」と計算課題を出題します。 ③予習(120分)： ベニスの商人、ロンドン大火について、あらすじ、概要を知っておく（参照資料は事前に示す） ④復習(120分)： 興味をひかれたかつての仕組みについて掘り下げる。
4	①授業テーマ： 損害保険の原理と技術的基礎 ②授業概要： 損害保険を成り立たせている原理と技術的基礎をわかりやすく解説します。冒頭で、事前課題として提出してもらった小話の「オチ」をパターン別にいくつか紹介し読み上げます。作成者は、指名された場合、そのようなオチに至った理由を説明する。 この小話にどうオチを付けるかは、保険の射幸契約性と技術的基礎（博打ではなく数理に基づき収支均衡）をどのように考えるか象徴しているので、これを導入に議論を始め、続いて、期待値、大数の法則、分散などを、単純なモデルやグラフを使って易しく説明します。 これらの概念について説明できる（E1、I1、I2）。 ③予習(120分)： 第4回の授業のテーマにかかわる小話（第3回でお題を出します）のオチを作り、事前に提出する。 ④復習(120分)： 期待値、大数の法則などの理解を確認する。
5	①授業テーマ： 保険の区分・種類、市場規模、販売チャネル、保険用語などの基本事項 ②授業概要： 第5回から第10回にかけて、様々な損害保険について解説します。その初回として、公保険・私保険の別、生命保険、損害保険、第三分野の別、損害保険における種目の区分、保険の基本的な用語（テクニカルターム）を理解し覚える（E1、B1）。第10回までの間、基本的な商品の内容の説明にとどまらず、担当教員の実務経験を踏まえて、具体的な引受・支払上の論点や事故の実例を踏まえた解説を試みます。第4回までに取り上げた原理や技術的基礎との関係も想起しつつ、リスクの処理を考える（第11回以降のテーマ）ツールに使えるよう損害保険を理解することを目指す。 なお、第4回までの内容について理解度を確認する小テストを行います。 ③予習(120分)： 損害保険の用語等について資料で確認する。 ④復習(120分)： 基本的な用語の定義と用法を確認し記憶する。
6	①授業テーマ： 交通事故のリスクと保険－自動車損害賠償責任保険（自賠責） ②授業概要： 自動車の保有台数、事故の発生状況と推移、交通安全対策の進展、保険の普及などの基礎データを参照し、現行制度成立の背景、経緯を概観するとともに、自動車事故を起こした場合の責任負担について把握する（E1、I2、I3）。 自動車人身事故については「運行供用者」に厳格な責任が課され、その賠償資力を裏打ちするために自賠責が強制保険となっていることを知った上、自賠責に特有の制度（被害者の直接請求、法令による支払い基準、重過失のみ減額、政府保障など）の設えを理解し説明できる（E1、I1）。 ③予習(120分)： 交通事故を起こした場合の責任と自賠責の概要について資料で確認する。 ④復習(120分)： 交通事故を起こした場合の責任と自賠責の補償内容、機能、特徴について確認する。
7	①授業テーマ： 交通事故のリスクと保険2－自動車保険（任意保険） ②授業概要： 自賠責が法律に基づき対人賠償事故のみを補償する保険であるのに対し、自動車保険は車両や対物賠償なども補償するという違いや、それぞれの補償内容と免責事由、契約にあたっての注意事項などを理解し説明できる（E1、B1、I1）。また、賠償事故の示談代行の意義、仕組みやロードサービス、ドライブレコーダーによる自動通報など付随する機能も知っておく。 人身傷害保険の機能と加害者に対する求償や自賠責保険との関係で生じる法的論点について補足します。 なお、第5回で解説した用語の定義や第6、7回の理解度を確認する小テストを行います。 ③予習（120分） 自動車保険に備える保険の概要を資料で確認する。自動運転（自動

	走行) 車両の概要を知っておく。 ④復習(120分) 自動車保険の補償内容や機能を確認する。
8	①授業テーマ: 自動運転(自動走行) 車両・システムのリスクと保険 ②授業概要: 「レベル4」以上の自動運転が実用段階になり、社会実装が始まりつつある。自動運転が普及すると、交通事故の当事者関係や事故の責任負担はどのように変化し、それに応じて保険はどう変化するのか論議、検討する(E1、B1、I1、I2、I3)。検討の材料、前提として、システムの概要、国交省等の示す論点や課題、内外の事故例、責任と保険に関する現在の整理(研究会報告)等を解説します。 ③予習(120分): 自動運転車両・システムの概要を資料で確認する。 ④復習(120分): 議論の結果を再整理・再確認する。
9	①授業テーマ: 住まいのリスクと保険(火災保険、地震保険) ②授業概要: 火災や自然災害により住まいが失われた場合の家計へのインパクトを把握(標準的家計で経済的インパクトを試算)するとともに、火災保険の保険金支払いや保険料の推移など統計データを把握し、ミクロとマクロの両面から規模感と必要性を把握する(I1、I2、I3)。キャンパスの近隣から近郊までの地形図や洪水・土砂災害ハザードマップを参照し、水災・土砂崩れ等の危険について考える(B1、I3)。担当教員の実務経験を踏まえ、住まいのリスクに備える火災保険の概要、機能、地震保険の特徴とその仕組みについて解説します。 火災や自然災害を補償する保険の概要、役割を説明できる(E1、I1)。 ③予習(120分): 火災保険、地震保険の概要を資料で確認する。 ④復習(120分): ハザードマップや事故の情報、自然災害の統計等の参照を試みる。
10	①授業テーマ: 企業のリスクと保険 ②授業概要: 業種が異なる複数の企業の財務諸表(BS、PL)の特徴を手掛かりに、当該企業が大きなインパクトを受けるリスク発現を検討する(E1、B1、I2)。事業の特性により重要なリスクが異なることを理解し、備えるべき対象が何かを検討する(E1、B1、I1)。担当教員の実務経験を踏まえ、興味深い事例を取り上げ、保険設計上の論点などを解説します。 ③予習(120分): 第2回と同様に、EDINETを用いて企業が認識し、開示しているリスクを把握する。 ④復習(120分): 企業のリスクに対応する損害保険の概要、特徴を再確認する。
11	①授業テーマ: 企業のリスクファイナンス ②授業概要: 企業のリスクマネジメントは、リスクコントロールとリスクファイナンスからなるプロセスであり、リスクファイナンスには損害保険を含む様々な手法がある。これらの概要を把握したうえで、製造業における工場罹災のリスクを例として、PMLとリスクの定量的把握、ファイナンスと保有のコストなど主要な要素とプロセスを具体的に理解する(E1、I2)。これらの理解をもとに、コントロールとファイナンスを組み合わせた単純なモデルを用いて、効率的なリスクファイナンスの検討手法を解説します。 なお、第9回～第11回の理解を確認する小テストを行います。 ③予習(120分): リスクマネジメントとリスクファイナンスについて資料で確認しておく。 ④復習(120分): モデルを用いた効率化の考え方について理解を確認する。
12	①授業テーマ: 巨大リスクと再保険およびプール ②授業概要: 保険は均質で十分大きな保険集団を形成することで収支が安定するが、それがかなわない場合の対応として再保険があり、プールがある。再保険は、保険会社から保険会社へのリスク移転の取引であり、担当教員の実務経験を踏まえて、その様々な取引形態を順を追って解説します。プールは、保険会社が共同して形成するもので、元受プール、再保険プール双方があり、国際的に形成・運営されているもの、民間のみならず政府も関与するものなど多様であり、担当教員の実務経験を踏まえて実例をもとに解説します。 再保険およびプールの意義と仕組みを理解し説明できる(E1、I1)。 なお、第14回に向けた課題を出します。 ③予習(120分): 再保険およびプールの仕組みについて資料で概要を把握する。 ④復習(120分): 理解を確認する。
13	①授業テーマ: 保険と法令 ②授業概要: 保険業は免許業種であり、契約者(消費者)保護のため商品や販売が規制・監督に服しているとともに、保険会社の財務健全性も監督を受けています。監督法のみならず、契約にかかわる権利義務関係も「保険法」による規整があります。担当教員の実務経験を踏まえて、保険に関するおもな法律について解説します。 保険関係法規にどのようなものがあり、契約者保護のためにどのような領域を規制・監督し、契約の規整を定めているのか基本的な内容を説明できる(E1)。

	③予習(120分)： 保険に関する主な法令の目的、概要について資料で確認する。 ④復習(120分)： 保険に関する主な法令の特徴について再確認する。
14	①授業テーマ： ERMと保険経営 ②授業概要： 授業の最終盤に至り、保険経営そのものとも言うべきERMに触れることにします。保険事業はリスクを引き受けることで成り立ち、社会経済に貢献するものであり、保険会社は、リスクをより多くかつ安定的に引き受けるために、リスクを定量化し、リスク選考に沿ってリスクテイクの最適化を図るプロセスを繰り返している。実際には広範かつ複雑なプロセスですが、担当教員の実務経験を踏まえ、基本コンセプトを単純化したモデルや図解を用いて解説します。 ERMの基本コンセプトを説明できる (I1、I2)。 なお、第12回、第13回の理解を確認する小テストを行います。また、第15回の論議課題を示します。 ③予習 (120分) 事前に提示された計算課題に回答する。 ④復習 (120分) ERMのコンセプトを確認する。
15	①授業テーマ： まとめ ②授業概要： 第1回で例示したような課題（授業終了時に理解し説明出来るようになってほしい事柄）をいくつかを示します。示されたテーマについて考えをまとめメモを作成する。テストではなく、複数名で相談してまとめてもかまわない。何人かを指名し、まとめた考えを説明してもらい、これらに対し講評をおこないます。最後に各回「に関するものおよび総括的な質疑や確認を行ってまとめとします。 ③予習(120分)： 事前に示された課題について検討しておく。 ④復習(120分)： 15回を振り返り理解を確認する。
関連科目	RMGT2341民法（総則・物権） RMGT3423リスクファイナンスⅠ RMGT3503自然災害論 RMGT3402事故責任法制
教科書	教科書は指定しない。授業ごとにパワーポイントの資料を用意し、授業の原則2日前までにポータルサイトに掲示する。
参考書・参考URL	「基礎からわかる損害保険」中出、中林、平澤 監修 2018年6月 有斐閣 「損害保険市場論（11訂版）」佐野、竹井、野口、小川、井口著 損害保険講座テキスト 2021年6月 損害保険事業総合研究所 「図説損害保険ビジネス」（株）トムソンネット編 鈴木、岩本ほか著 2018年5月 金融財政事情研究会 「保険ERM基礎講座」後藤著 2017年4月 保険毎日新聞社 「ベーシックプラス リスクマネジメント」柳瀬、石坂、山崎著 2019年6月 中央経済社 「CFO視点で考えるリスクファイナンス」加藤著 2018年10月 保険毎日新聞社 「海上保険の理論と実務」木村、大谷、落合編 2012年 弘文堂 「ロンドン大火 歴史都市の再生」大橋 2017年 原書房 「明暦の大火」岩本 2021年 吉川弘文館 「天災から日本史を読み直す」磯田 2014年 中公新書
連絡先・オフィスアワー	
研究比率	危機管理領域との対応 災害マネジメント：40% パブリックセキュリティ：20% グローバルセキュリティ：20% 情報セキュリティ：20% 危機管理と法学のバランス 危機管理：50% 法学：50%

